

平成30年度第1回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成30年9月12日（水） 13：30～16：00

場所：本山町プラチナセンター ふれあいホール

出席：委員17名中、16名が出席

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

1) 第3期嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

2) 追加・修正等の案件について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事(1)(2)(3)について、県から説明し、意見交換を行った。(主な意見は下記のとおり)

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

(2) 地域アクションプランについて

(No.6 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興)

(No.7 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化)

(重光委員)

堆肥の活用とあるが、具体的にはどのようなものか。

(豊永地域産業振興監)

土佐あかうしに関しては堆肥工場を新設し、堆肥をペレット化して販売出来ないかということでサンプルを開発中。大川村では大川黒牛、土佐はちきん地鶏も堆肥の活用を検討中であり、土佐町と連携して取り組んでいければいいということで情報交換しながら進めている。

(No.17 嶺北地域の連携による交流人口の拡大)

(No.18 嶺北広域観光アウトドアの里づくり)

(窪内委員)

土佐れいほく博開催に向けての現在の取り組み状況、県内県外に向けてのPR等についてどのようにされているのかお聞きしたい。

(豊永地域産業振興監)

新しく本山町に県職員を派遣し、事務局を構えて取り組みを始めており、こういったイベントを進めるのかといった検討を進めている。土佐れいほく博の効果を生かして民間の事業者も自分たちの利益につなげていけるように、民間の事業者にも色々取り組みを考えていただきたい。

(細川委員)

8月27日の土佐れいほく博推進協議会において、開催に向け鋭意取り組みを進め、予算についても必要な部分は4町村及び県で対応していくことが確認された。PRについては四国圏、関西圏の県人会等で4町村長が積極的な広報活動を行っていくことを申し合わせた。アウトドア拠点施設の整備については土佐れいほく博の会期に迷惑をかけることのないように取り組みを進めているので理解をいただきたい。

(小笠原(妙)委員)

土佐れいほく博というやはり観光と食ではないかと考える。土佐あかうし、土佐はちきん地鶏がしっかり確保できる体制づくりをお願いしたい。

(豊永地域産業振興監)

土佐あかうしは流通の関係から手に入りづらいというところが検討課題である。地域内で食べていただくところをしっかりと確保していくということで、さめうら荘で土佐あかうし、土佐はちきん地鶏などを活用したメニューづくりを進めていただいている。嶺北管内で商工会等を通じ、地域の食材を使っただけのように取り組んでいただけたらありがたい。

### (3) 産業成長戦略について

(自然・体験型観光キャンペーン)

(西村委員)

土佐れいほく博を一つのモデルとしてキャンペーンに取り入れていただき、土佐れいほく博が成功するよう全面的な協力をいただきたい。

(別府地域観光課企画監)

土佐れいほく博には期待している。ぜひ連動した形で土佐れいほく博の取り組みについてもPRはさせていただきたい。

(移住促進の取り組みについて)

(川村委員)

事業承継の掘り起こしや都市部人材への人材ニーズの発信はすごく重要だと思う。並行して、既に移住されている方への情報発信をしていただけると非常に良い。

事業承継の掘り起こしに関しては、事業譲渡側の目線だけでなく、移住者の目線やITの活用なども含め、廃業にならないよう可能性のある事業を積極的に拾っていただきたい。田舎暮らしネットワークも協力してできたらと思う。

(吉良移住促進課課長補佐)

事業承継については喫緊の課題であり、高知県移住促進・人材確保センターにおいて、高知求人ネットという県内の就職に関する情報を一元的に集約して発信する仕組みを構築し、対応している。事業引継ぎ支援センターと併せて周知を行っていく。

(重光委員)

地域では農業や林業など高齢化が進み後継者の育成が課題である。例えば、生活を支援していく支援センターのようなもの、また、後継者をつくっていく学校のような、研究も含めたセンター的拠点ができないか。

(豊永地域産業振興監)

町村独自の研修のほか、農業では農業担い手センターでの研修や、農業大学校に入っている方法もある。また、林業であれば林業大学校であり、全県的に研修する場というのは充実していると考えます。個々の取り組みで課題があれば、農業振興センターや林業事務所、地域本部などに相談していただければ適切に担当しているところにと繋いでいく。

(以上)